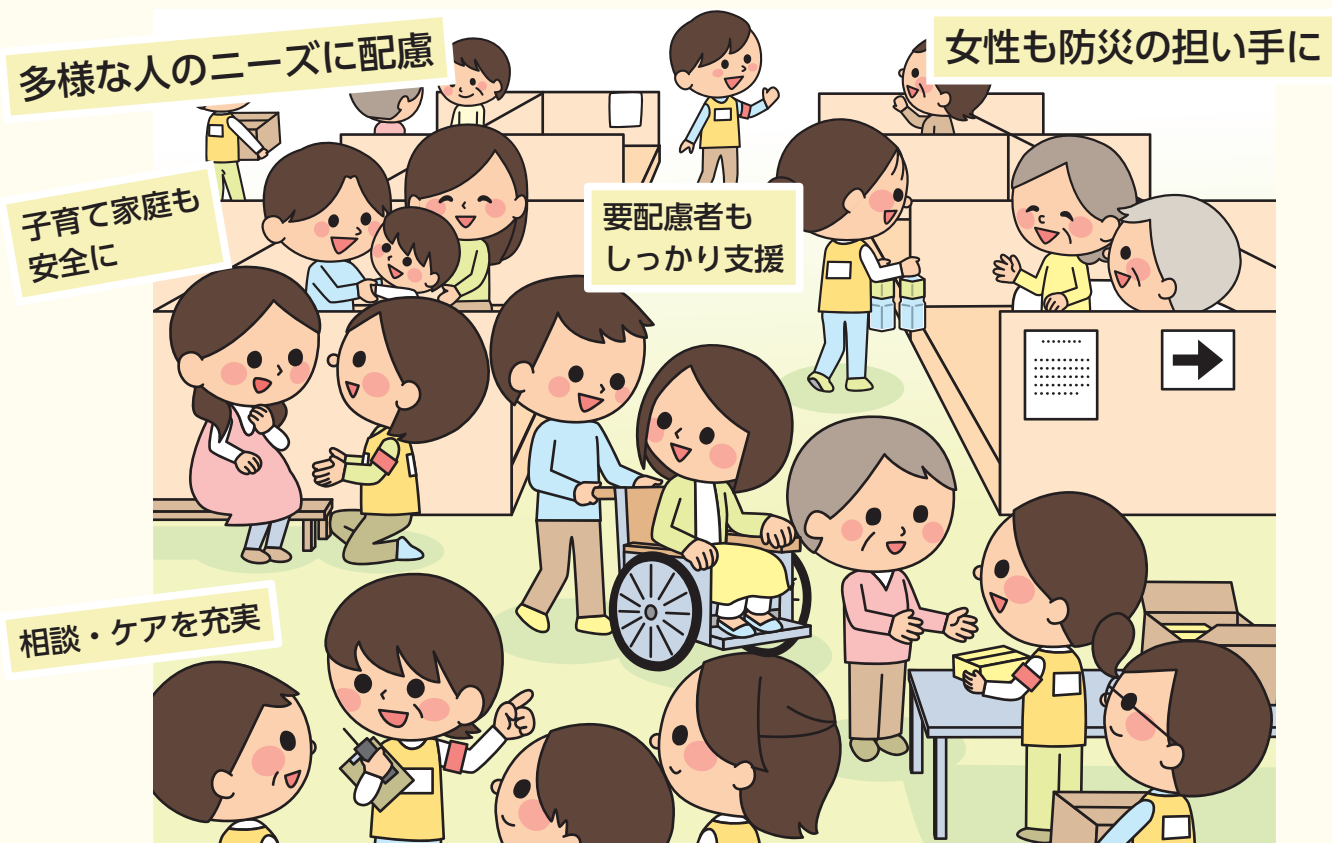


避難所運営から考える

男女共同参画

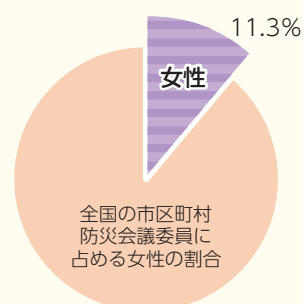
もし、災害で自宅を離れ、避難所生活をするようになったら…。
 避難所は、年齢・性別の違うさまざまな人が協力して生活する空間です。安心して過ごせる避難所にするためには、どうしたらいいのでしょうか。
 避難所生活を通じて、性別にかかわらず一人一人の個性と能力を発揮できる「男女共同参画」の意義を考えてみましょう。

問合せ 人権・男女共同参画課／Tel.674-7575 ID 166070



どうして女性の声が反映されにくい？

地域の防災組織では会長などの役職の大半が男性です。意見を取りまとめたり、大切なことを決めたりする場に、女性がほとんど参画していないのが現状。もっと女性の声を反映することが避難所運営の質の向上につながります。



「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（令和6年度）」（内閣府男女共同参画局）を加工して作成



避難所で起こった困り事

避難所生活が始まると、さまざまな問題に直面します。しかし、非常事態の中では、改善や要望は口にし難いもの。どんな課題や声が埋もれているのでしょうか。※内閣府男女共同参画局「令和6年度 男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査 報告書」より

性別で役割が決められた

性別によって役割が固定化されると、男女間で不満が生じたり、生活がしづらかったりします。

- ・責任が重い避難所運営の代表、復旧作業などの力仕事は男性に
- ・食事づくりや介護・育児は女性が担当



安心して過ごせなかった

間仕切りなどによるプライバシーの保護や導線の確保、授乳が必要な人などへの配慮が十分でないと、安心して過ごしにくくなります。

- ・着替えや授乳がしにくい
- ・トイレが男女共同で使いにくい
- ・性暴力が怖い

安全に配慮した環境に



物資が受け取りにくかった

デリケートな物資は、異性からの配布だと受け取りにくくなります。

女性用下着や生理用品が届いても配布担当が男性で行きづらい…



- ・異性から下着や生理用品をもらうのが恥ずかしい
- ・サイズ・種類、不足など要望を伝えにくい

どうして問題は起こる？

私たちは、普段から「男性は仕事、女性は家庭」「男性はリーダー、女性は補助」というような無意識の思い込みで性別による役割分担をしていることがあります。

男女が共に避難所での意思決定などに参画し、性別で異なるニーズや課題を理解することで、偏りのない、きめ細かな避難所運営が可能になります。



多様な視点で誰もが安心できる環境へ

避難所は日常の社会構造が反映されるため、平常時から男女共同参画が十分に進んでいると、安心できる環境も整っていきます。

私たちが日頃から取り組めることについて、専門家に伺いました。



斉藤容子さん

人と防災未来センターリサーチフェロー、関西国際大学客員教授として研究活動に従事。神戸市防災会議委員

避難所は社会の縮図になっている

災害時は人の尊厳が軽視されがち

避難所では「命を守る」ことに集中するあまり「我慢しよう」が美德となり、多様な人の尊厳が軽視されがちです。

阪神・淡路大震災から30年経った今も、女性や乳幼児を抱える人の視点が取りこぼされるなど、改善すべき点は残っています。

日常の固定観念が避難所に

国が実施した「性別による無意識の思い込みに関する調査（令和4年度）」によると、20～30代男性で性別役割に関して思い込みがまだ残っている傾向が見られました。

性別の役割分担意識は、自然になくなるものではありません。災害時の避難所でも、このような役割の偏りが固定されかねません。

避難所が直面する問題

役割の偏りから生じる負担

意見を言いにくいと困り事が共有されず、負担を抱え込むことがあります。避難所の役割分担でも、女性は炊き出しやケア、男性はリーダー役や瓦礫（がれき）処理など、偏りがちです。

「災害時だから」と諦めず、男女が協力して改善すべき課題です。

性暴力の発生リスクが高まる

能登半島地震でも、下着や生理用品が廊下に並べられるなど、女性が物資を受け取りにくい状況が見られました。

さらに、災害時の雑魚寝や車中泊では、性暴力などのリスクも高まります。残念ながら、東日本大震災や熊本地震でも被害が確認されています。



参加者に簡易トイレの使い方を説明



給水タンクの設置も男女一緒に



女性リーダーが参加者を誘導

（令和7年11/30に実施された市民避難訓練）

さまざまな人の参画が改善のカギに

役割を固定せずできる人が分担

避難所では年齢や性別で役割を決めつけず、属性や体力に合わせて柔軟に分担をすることが大切です。

例えば、物資を運ぶのに「男性集まって」ではなく「体力ある人集まって」と呼び掛けるのが望ましいでしょう。

多くの視点で新たな気づき

世代や経験によって視点は大きく異なります。例えば、液体ミルクを知っていれば備蓄できますが、知らない世代もいます。

避難所運営や意思決定に多くの人が加わり、新たな気づきや知識を生かして、備えを充実させることが大切です。

意思決定は男女ともに参画して

避難所では「お客さん」ではなく、主体的に運営に関わる姿勢が重要です。さらに、男女双方が管理責任を担うことで、より多様な意見を生かした避難所運営が進みます。

女性の参加は、これまでになかった地域団体との新たなつながりを生みますから、防災組織がより一層強化されます。

平常時からの男女共同参画

災害時の避難所では、性別によるニーズの違いが見過ごされたり、役割分担が画一的になったりして、多くの課題が噴出します。

平常時から男女共同参画の視点を取り入れ、誰もが力を発揮できる環境づくりが欠かせません。社会全体を持続可能で安心できる形にしていきましょう。

女性防災リーダーの声

みんなでつくる防災の輪



寿栄川添地区防災会
会長 久野肇子さん

私の強みは専門的なことでも疑問に思ったら、率直に「難しい」と声を上げられるところ。その場の雰囲気柔らかくし、みんなが意見を言いやすい環境にしています。

活動のきっかけは、コミュニティの副議長をしているときに、地区防災会の立ち上げに関わったこと。続けていると、組織として防災に関わっていない人が「これ、防災に役立つかも」と教えてくださることもあり、自分ない目線に感動します。性別や年齢にかかわ

らず多くの人に参加してほしいと思います。

ほかにも、校区内の小中学校の防災の授業では、子どもたちと共に学び合い、地域の声を伝えています。昨年の防災訓練では、小学生とその保護者に段ボールベッドの組み立て、簡易トイレの使い方の説明を任せることで、若い世代を巻き込み、意識を高めています。

普段からのさまざまな人との雑談や交流を通じ、身近なことからも、地域の防災の輪を広げていければと思います。

避難所運営に役立つ情報

さまざまな視点での意見が集まると、地域住民による避難所運営もより良いものとなります。

そのために活用できる資料やホームページがあります。ぜひ活用してください。



活用しよう

マニュアルやチェックシート

ID 166070

- ☒ 市避難所運営マニュアル作成モデル別冊 女性が提案する避難所運営
- ☒ 災害対応力を強化する女性の視点 防災・復興ガイドライン（内閣府男女共同参画局）
- ☒ 避難所チェックシート（内閣府男女共同参画局）

